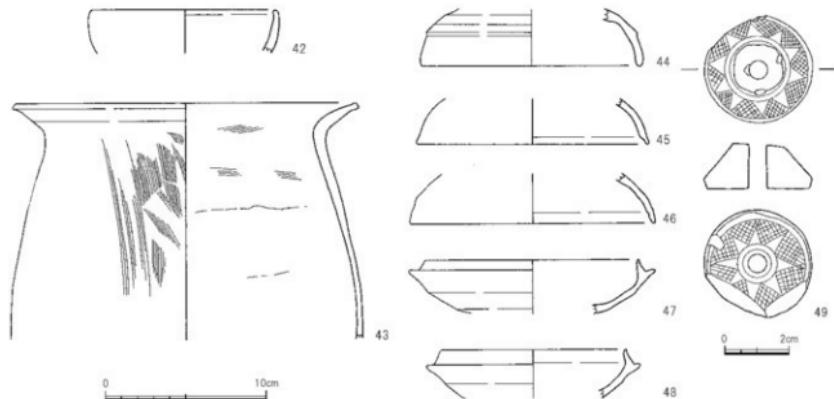


### 堅穴住居3（第19・21・23・24図）

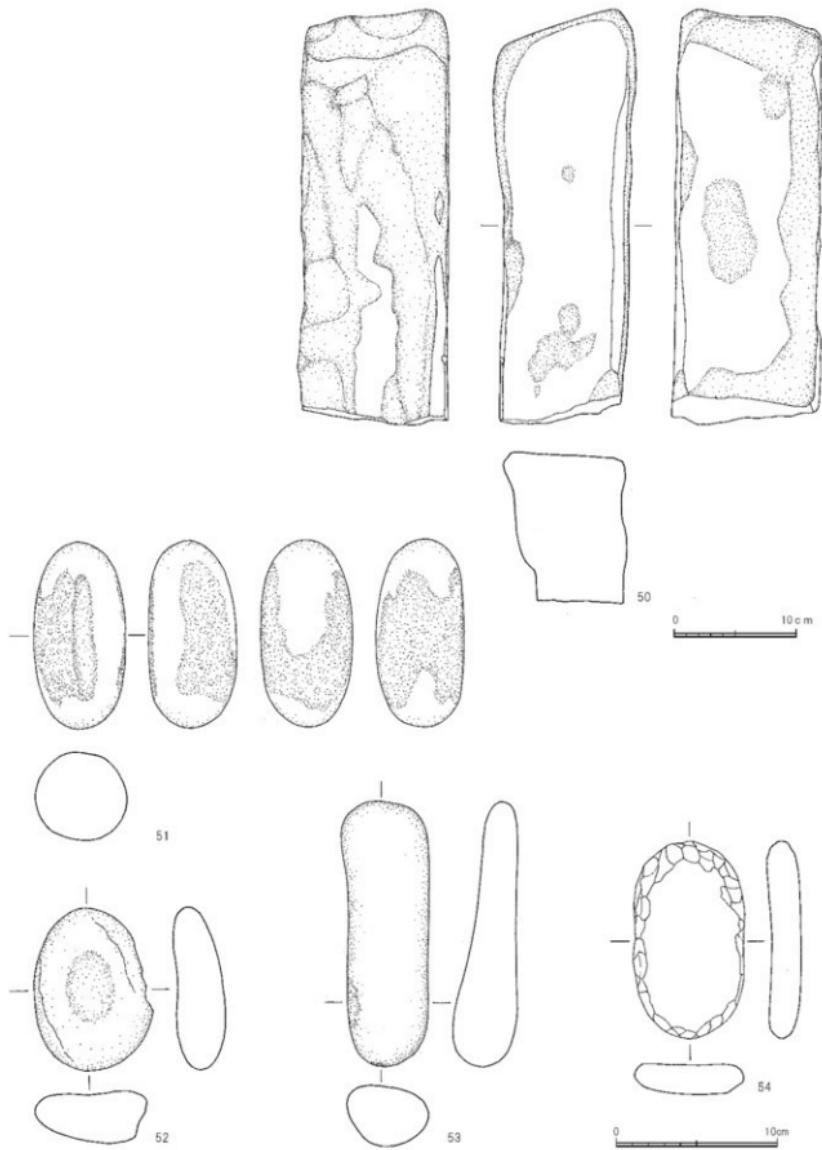
2トレンチ中央部と、その南に位置する9トレンチで検出した。東西約4.70m、南北5.20m以上、深さ約0.20mを測り、平面は長方形を呈すると思われる。堅穴住居2に切られ、堅穴住居4・6・9・10及び土坑2を切る。埋土は5Y4/3暗オリーブ色粘質土である。

遺物は土師器、須恵器、製塙土器、滑石製の紡錘車、和泉砂岩製の石器、鉄釘が出土した。42・43は土師器で、42は壺、43は甕。44～48は須恵器で、44～46は壺蓋、47・48は壺身。44は6世紀中頃、45～48は6世紀後半～7世紀初頭のものである。49は滑石製の紡錘車で、細かな斜格子文が施されている。50～54は和泉砂岩製の自然石を利用した石器。50は台石でほぼ直方体を呈し、使用痕は3面に認められる。数カ所の凹みには敲打痕がみられ、石皿や砥石としても利用されていた痕跡があり、面と縁の一部が研磨され平坦になっている。51～53はいずれも敲石で、51はほぼ全面に敲打痕が認められる。54は片面が研磨されて平坦であるが、敲石としても利用されたのか周縁は細かく打ち欠かれており、裏面は自然面をとどめる。

床面で住居に伴うピットを3基検出した。ピット3-1は東西0.35m、南北0.68m、深さ0.36m、ピット3-2は直径約0.52m、深さ0.26mを測り、埋土はどちらも堅穴住居3と同じである。ピット3-3は直径約0.36m、深さ0.36mで、柱痕を確認した。柱痕埋土は堅穴住居3と同じ、掘方埋土は7.5YR3/4暗褐色粘質土で地山の土が混じる。いずれからも遺物の出土はなかった。



第23図 馬川遺跡17-4区 堅穴住居3 出土遺物

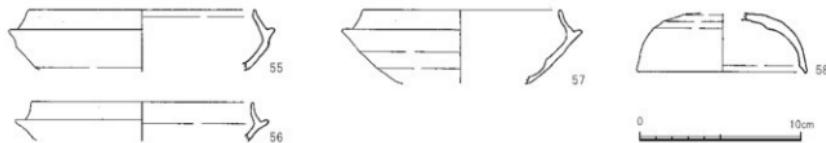


第24図 馬川遺跡17-4区 堅穴住居3 出土遺物

#### 堅穴住居4（第19・21・25図）

2トレンチ中央の北部で検出した。西部は堅穴住居3に切られ、北部はトレンチ外へ広がるため規模は不明であるが、深さは0.18mを測る。埋土は2.5Y2/1黒色粘質土である。

遺物は土師器、須恵器が出土した。55～57は須恵器坏身、58は須恵器短頸壺の蓋で、いずれも6世紀中頃のものである。



第25図 馬川遺跡17-4区 堅穴住居4 出土遺物

#### 堅穴住居5（第19・21・35図）

2トレンチ東端と、その東に位置する3・4トレンチ北部で検出した。東西約3.80m、南北約3.80mの平面が正方形を呈すると思われ、深さは約0.16mを測り、埋土は2.5Y4/1黄灰色粘質土である。

遺物は土師器、須恵器、土師質有孔土錐、スサ入り焼土塊が出土した。

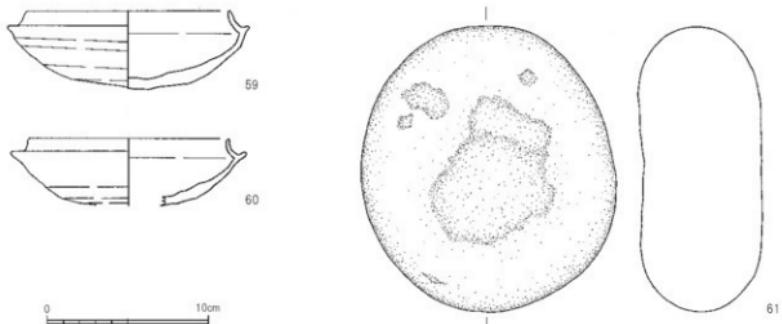
3トレンチ北部の住居東壁でカマドを検出した。埋土は10YR2/3黒褐色粘質土で、炭化物やカマドの壁を築いていたと思われる焼土も確認したが、トレンチ外へ延びており詳細は不明である。遺物は土師器が出土した。

#### 堅穴住居6（第19・21・26～28図）

2トレンチ南東端、4トレンチ南部、5トレンチ、6トレンチ北部で検出した。東西約5.00m、南北約4.20m、深さ約0.20mを測る。平面はやや長めの方形を呈すると思われ、2トレンチでは堅穴住居3及びピット4・5に、5トレンチでは土坑5に切られ、6トレンチでは堅穴住居7を切る。埋土は2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土である。

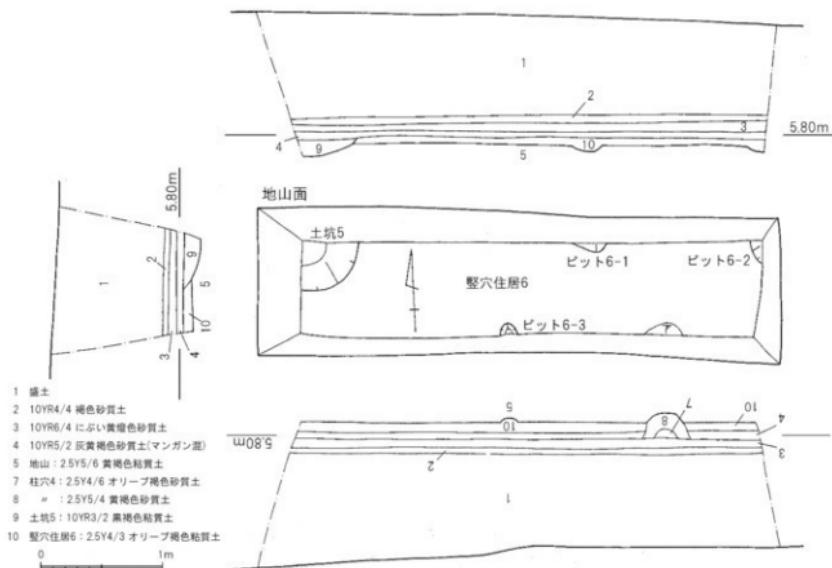
遺物は土師器、須恵器、和泉砂岩製の石器が出土した。59・60は須恵器の坏身で6世紀中頃～後半のもの。61は和泉砂岩の自然石を用いた台石で、片面に敲打痕がある。

住居の中央部にあたる5トレンチの床面で住居に伴うピットを3基検出した。ピット6-1は東西0.28m以上、南北0.07m以上、深さ0.06mで北部はトレンチ外へ広がる。ピット6-2は東西0.12m以上、南北0.20m以上、深さ0.04mで北

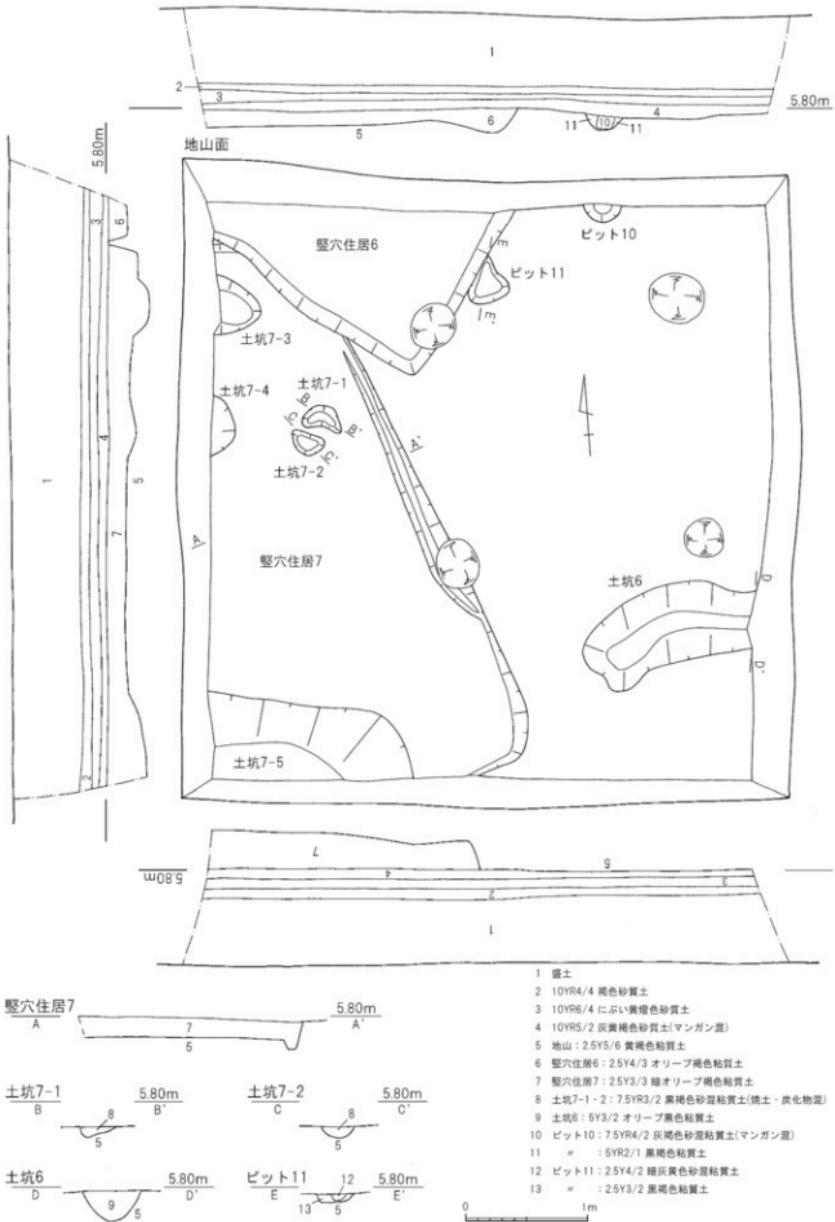


第26図 馬川遺跡17-4区 堅穴住居6 出土遺物

部および東部はトレンチ外へ広がる。ピット6-3は直径約0.10m、深さ0.03mで南部はトレンチ外へ広がる。いずれも埋土は堅穴住居6と同じで、遺物の出土はなかった。



第27図 馬川遺跡17-4区 5トレンチ平面・断面図



第28図 馬川遺跡17-4区 6トレンチ平面・断面図

### 堅穴住居7（第19・28・29図）

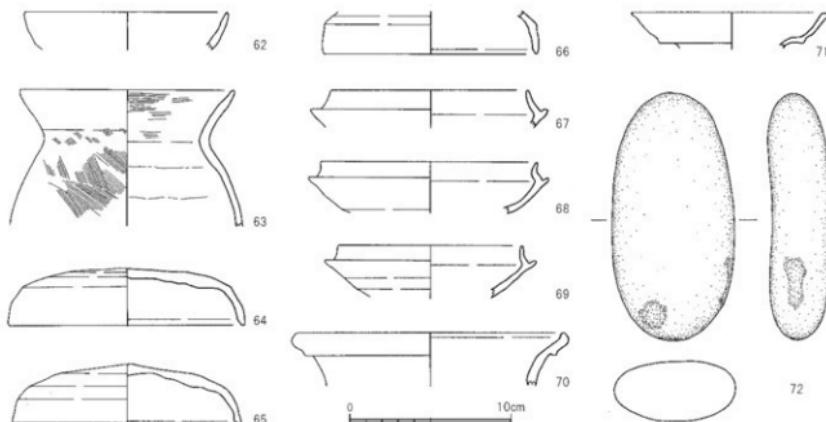
6トレンチ西部で検出した。南北約4.80mで、西部はトレンチ外へ広がるため規模は不明であるが、平面は方形を呈すると思われる。埋土は2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質土である。

遺物は土師器、須恵器、土師質管状土錐、和泉砂岩製の石器、砥石、炭化木片が出土した。62・63は土師器で、62は壺、63は甕。64～71は須恵器で、64～66は壺蓋、67～69は壺身、70は壺、71は甕。いずれも6世紀中頃のものである。72は和泉砂岩製の自然石の敲石。3ヶ所に敲打痕が認められ、片面は被熱により赤変している。

床面で住居に伴う壁溝及び土坑5基を検出した。壁溝は住居東壁で確認され、幅約0.20m、深さ約0.08mを測る。

土坑7-1・2はいずれも東西約0.30m、南北約0.20mの不定形を呈し、埋土は7.5YR3/2黒褐色砂混粘質土で焼土及び炭化物が混じる。遺物は土坑7-1から土師器の細片が出土した。

土坑7-3は東西0.35m以上、南北0.50m、深さ0.12mで、遺物は土師器、スサ入り焼土塊が出土した。土坑7-4は東西0.20m以上、南北0.47m以上、深さ0.06m以上で、西部はトレンチ外へ広がる。遺物は出土しなかった。土坑7-5は東西1.65m以上、南北0.72m以上、深さ0.12mで、西部及び南部はトレンチ外へ広がる。遺物は土師器、須恵器が出土した。埋土はいずれも堅穴住居7と同じである。



第29図 馬川遺跡17-4区 堅穴住居7 出土遺物

### 堅穴住居8（第19・30・31図）

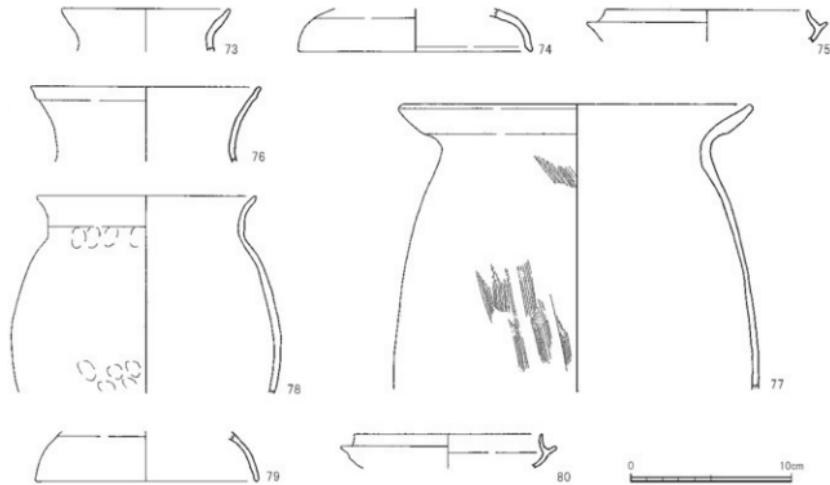
8トレンチ南部で検出した。東部を溝に切られ、大半がトレンチ外へ広がるため規模は不明であるが、平面は方形を呈すると思われる。深さは0.14mを測り、埋土は10YR2/3黒褐色砂混粘質土（マンガン混）である。

遺物は土師器、須恵器、土師質有孔土錐が出土した。73は土師器壺、74～76は須恵器で、74は坏蓋、75は坏身、76は壺。いずれも6世紀中頃～後半のものである。

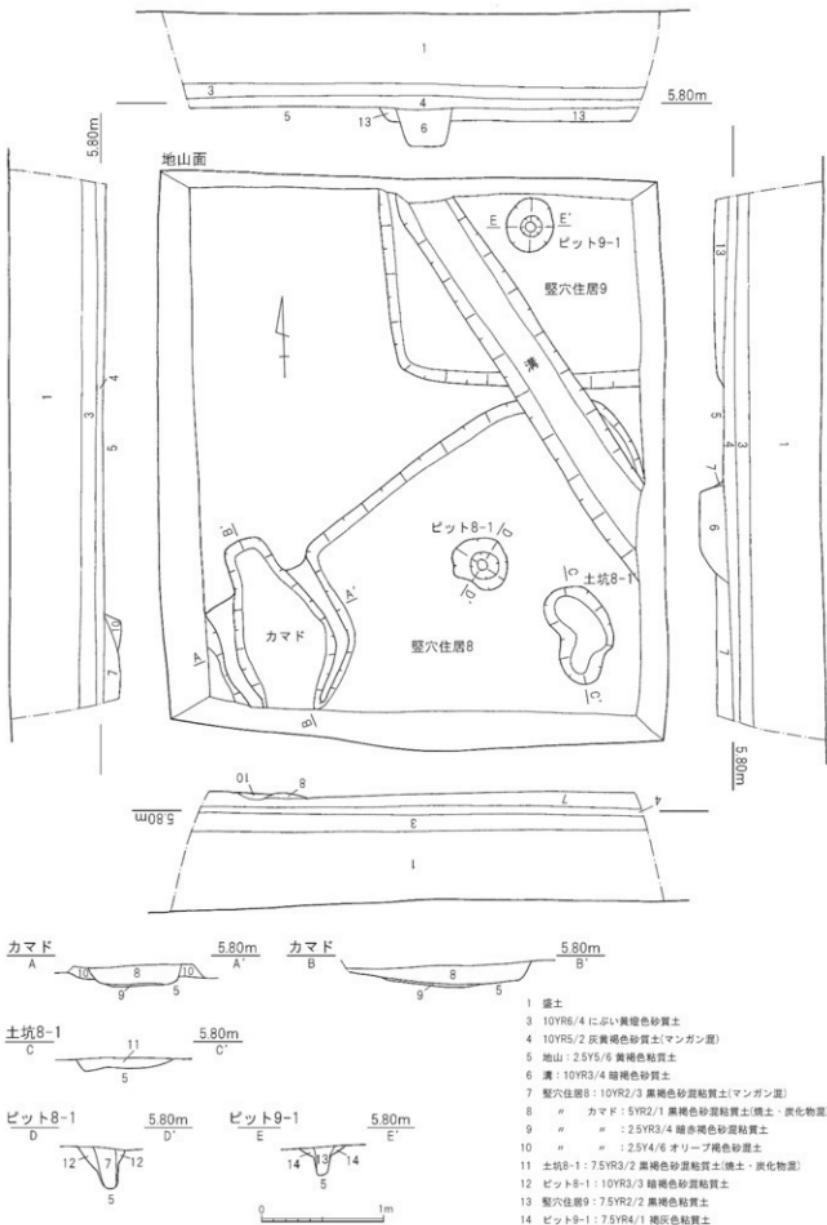
住居に伴うカマド、土坑、ピットをそれぞれ1基検出した。カマドは住居北壁に築かれ、煙道は壁を掘り込み住居外へ出る。埋土である5YR2/1黒褐色砂混粘質土には炭化物が混じり、遺物は土師器、須恵器とともにカマドを築いていたと思われるスサ入り焼土が出土した。77・78は土師器の甕で、77はカマドの中心部で検出した。79は須恵器の坏蓋、80は須恵器の坏身で、6世紀後半のものと考えられる。

土坑8-1は東西0.44m、南北0.84m、深さ0.10mを測る不定形を呈し、埋土は7.5YR3/2黒褐色砂混粘質土に焼土と炭化物が混じる。遺物は土師器、須恵器が出土した。

ピット8-1は直径0.40m、深さ0.35mを測り、柱痕埋土は堅穴住居8と同じ10YR2/3黒褐色砂混粘質土（マンガン混）、掘方埋土は10YR3/3暗褐色砂混粘質土である。柱痕埋土から土師器、掘方埋土から土師器、須恵器が出土した。



第31図 馬川遺跡17-4区 堅穴住居8 出土遺物



第30図 馬川遺跡17-4区 8トレンチ平面・断面図

### 豊穴住居9（第19・30図）

7トレンチ西部と8トレンチ北東部で検出した。東西約4.60m、深さ約0.10mを測り、埋土は7.5YR2/2黒褐色粘質土である。豊穴住居3及び奈良時代の溝に切られ、豊穴住居10を切っている。平面は方形を呈するが、大半がトレンチ外であるため全体の規模は不明である。

遺物は古墳時代後期の土師器、須恵器が出土した。

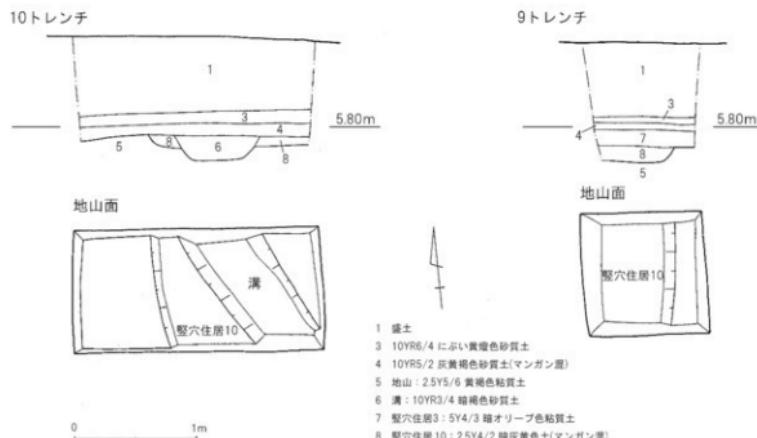
床面で住居に伴うピットを1基検出した。ピット9-1は直径0.40m、深さ0.24mを測り、柱痕埋土は豊穴住居9と同じ、掘方埋土は7.5YR4/1褐灰色粘質土である。遺物は出土しなかった。

### 豊穴住居10（第19・21・32～34図）

2トレンチ南東部、9トレンチ西部、10トレンチ東部で検出した。住居北部にあたる2トレンチでは豊穴住居2に、南東部にあたる9トレンチでは豊穴住居3に、南西部にあたる10トレンチでは溝に切られ、大半がトレンチ外のため規模は不明であるが、東西約4.30m、南北4.00m以上と推定される。深さは0.15mを測り、埋土は2.5Y4/2暗灰黄色土（マンガン混）である。

遺物は土師器、須恵器、製塙土器、土師質有孔土錐が出土した。

床面で住居に伴う土坑とピットをそれぞれ1基検出した。埋土はどちらも豊穴住居10と同じである。土坑10-1は東西0.76m、南北0.97m、深さ0.10mで、遺物は土師器、須恵器が出土した。ピット10-1は直径0.48m、深さ0.12mで、

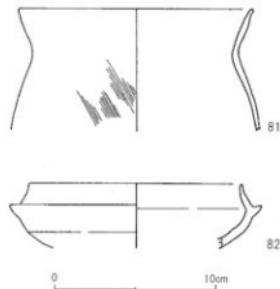


第32図 馬川遺跡17-4区 9・10トレンチ平面・断面図

遺物の出土はなかった。81・82は土坑10-1から出土した。81は土師器の甕、82は須恵器の壺身でどちらも6世紀中頃のものと思われる。



第33図 馬川遺跡17-4区 堪穴住居10  
土坑10-1 平面・断面図



第34図 馬川遺跡17-4区 堪穴住居10 出土遺物

### 土坑1（第19・21図）

2トレンチ南部の堪穴住居3の埋土上面で検出した。東西1.16m、南北0.58m以上、深さ0.27mを測り、南部はトレンチ外へ広がる。埋土は7.5YR3/2黒褐色粘質土で焼土が混じる。遺物は出土しなかった。

### 土坑2（第19・21図）

2トレンチ東部の地山面で検出した。東西0.65m以上、南北1.75m以上、深さ0.16mを測る不定形土坑で、堪穴住居3に切られる。埋土は7.5Y3/2オリーブ黒色粘質土で、遺物は出土しなかった。

### 土坑3（第19・35・36図）

3トレンチ北部の堪穴住居5の埋土上面で検出した。東西0.48m、南北0.50m以上、深さ0.09mを測る不定形土坑で、南部はトレンチ外へ広がる。埋土は10YR3/4暗褐色土で焼土や炭化物を含み、遺物は古墳時代の土師器、須恵器が出土した。83は土師器の甕である。

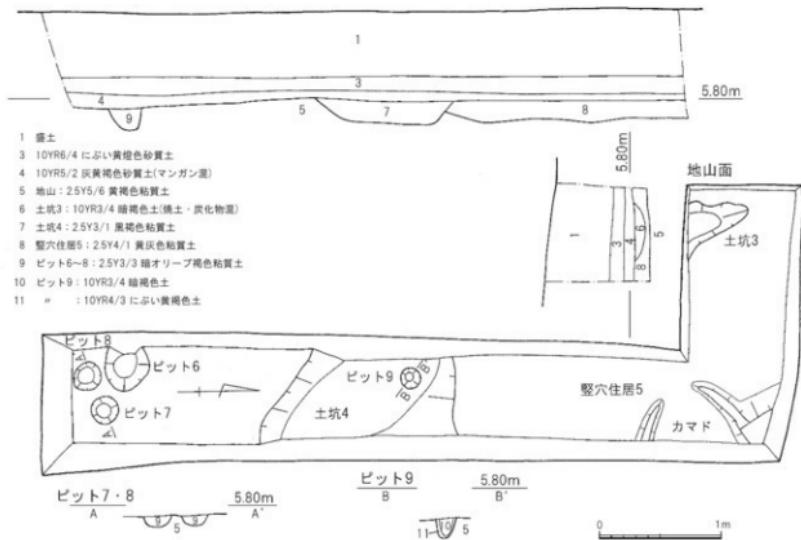
### 土坑4（第19・35図）

3トレンチ中央部の地山面で検出した。東西0.74m以上、南北1.58m、深さ



第36図 馬川遺跡17-4区 土坑3 出土遺物

0.20mを測る。竪穴住居5を切り、東部と西部はトレンチ外へ広がる。埋土は2.5Y3/1黒褐色粘質土で、遺物は土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器が出土した。中世期の遺構と考えられる。



第35図 馬川遺跡17-4区 3トレンチ平面・断面図

### 土坑5（第19・27図）

5トレンチ北西端の竪穴住居6の埋土上面で検出した。東西0.50m以上、南北0.46m以上、深さ0.13mを測り、大半がトレンチ外へ広がる。埋土は10YR3/2黒褐色粘質土で、遺物は出土しなかった。

### 土坑6（第19・28図）

6トレンチ南東部の地山面で検出した。東西1.40m以上、南北0.65m、深さ0.24mで、東部はトレンチ外へ広がる不定形土坑である。埋土は5Y3/2オリーブ黒色粘質土で、遺物は土師器、須恵器が出土した。図化できる遺物はなかつたが、古墳時代の遺構と考えられる。

### ピット1（第19・21図）

2トレンチ北東端の地山面で検出した。東西0.50m、南北0.20m以上、深さ0.30mを測り、柱痕埋土は10YR3/1黒褐色土、掘方埋土は10YR5/2灰黄褐色土である。遺物は出土しなかった。

### ピット2（第19・21・37図）

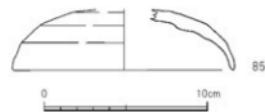
2トレンチ東部の地山面で検出した。直径約0.50m、深さ0.36mを測り、埋土は5Y5/1灰色粘質土である。遺物は土師器、須恵器が出土した。84は土師器の小型甕で、内部に粘土紐輪積痕が残る。7世紀頃のものである。



第37図 馬川遺跡17-4区 ピット2 出土遺物

### ピット3（第19・21・38図）

2トレンチ東部の地山面で検出した。直径約0.30m、深さ0.15mを測り、埋土はピット2と同じ5Y5/1灰色粘質土である。遺物は須恵器が出土した。85は須恵器壺蓋で、7世紀前半のものである。



第38図 馬川遺跡17-4区 ピット3 出土遺物

### ピット4・5（第19・21図）

2トレンチ南東部の竪穴住居6の埋土上面で検出した。いずれも直径約0.25m、深さ約0.10mを測る。埋土は2.5Y4/4オリーブ褐色砂混粘質土で、遺物はいずれからも須恵器が出土したが、小片のため時代は不明である。

### ピット6・7・8（第19・35図）

3トレンチ南端の地山面で検出した。ピット6は直径約0.40m、深さ0.18m、ピット7・8は直径約0.24m、深さ約0.08mを測る。埋土はいずれも2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質土で、遺物は出土しなかった。

### ピット9（第19・35図）

3トレンチ中央部の土坑4の埋土除去後に検出した。直径0.16m、深さ0.16mを測る。柱痕埋土は10YR3/4暗褐色土、掘方埋土は10YR4/3にぶい黄褐色土である。遺物は柱痕埋土から土師器、掘方埋土から須恵器が出土したが、どちらも小片のため時代は不明である。

### ピット10（第19・28図）

6トレンチ北端の地山面で検出した。直径0.30m、深さ0.12mで、柱痕埋土は7.5YR4/2灰褐色砂混粘質土(マンガン混)、掘方埋土は5YR2/1黒褐色粘質土で

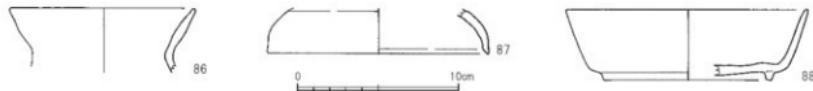
ある。遺物は出土しなかった。

#### ピット11（第19・28図）

6トレンチ北部の地山面で検出した。東西0.36m、南北0.40m、深さ0.07mで、竪穴住居6に切られる。柱痕埋土は2.5Y4/2暗灰黄色砂混粘質土、掘方埋土は2.5Y3/2黒褐色粘質土で、遺物は掘方埋土から土師器が出土したが、小片のため時代は不明である。

#### 溝（第19・21・30・32・39図）

2・8・10トレンチの竪穴住居8・9・10の埋土上面で検出した南北方向の溝で、長さ8.20m以上、幅約0.50m、深さ約0.20m～0.30mを測る。埋土は10YR3/4暗褐色砂質土で、遺物は土師器、須恵器が出土した。86は土師器の壺、87・88は須恵器。87は壺蓋で6世紀後半、88は壺身で8世紀のものである。



第39図 馬川遺跡17-4区 溝 出土遺物

### 第3節 波有手遺跡

波有手遺跡は、現在の海岸線より約500m内陸部に位置する。平成5(1993)年に公共工事に先立つ試掘調査で発見された遺跡で、その調査では奈良時代の墨書き土器が36点出土し、うち31点に「海」という文字が書かれていた。また、同時代の製塩土器も多量に出土しており、製塩に関する施設の存在が想定される。

#### (1) 16-1区（第40～44図）

調査区は波有手遺跡の中央部に位置する。調査区内に4ヶ所のトレンチを設定し、全体で $29.67\text{ m}^2$ の調査を行った。

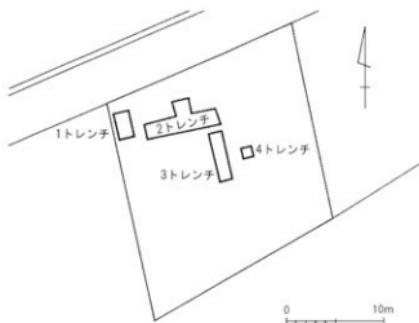
基本層序は第1層耕作土、第2層2.5Y6/3にぶい黄色砂質土(マンガン混)、第3層10YR4/3にぶい黄褐色粘質土、第4層2.5Y5/4黄褐色礫混土、第5層2.5Y6/4明黄褐色粘質土で、第4層以下は地山である。地山は地表面より約-0.40mから-0.68mで検出し、北方向へなだらかに傾斜する地形である。

遺物は第2・3層の各層より土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、製塩土器、土師質有孔土錐、中世瓦が出土した。第2・3層は中世期の層と思われる。1は8世紀の須恵器坏身、2は土師質有孔土錐、3は土師質椀で、1・2は第2層、3は第3層から出土した。

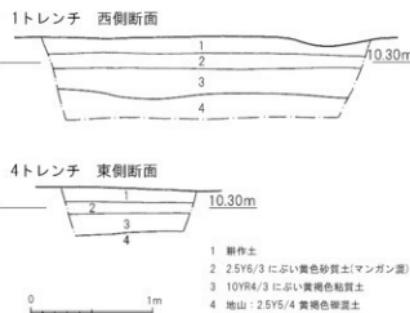
遺構は2・3トレンチの第3層上面でピット6基を検出した。ピット1は直徑約0.40m、深さ0.12m、ピット2は



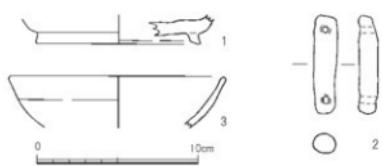
第40図 波有手遺跡 調査区位置図



第41図 波有手遺跡16-1区 トレンチ位置図



第42図 波有手遺跡16-1区 1・4トレンチ断面図



第44図 波有手遺跡16-1区 出土遺物